

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [名古屋市立愛知小学校] 担当教諭名 [吉村 恵美] (6年 44名)

交流相手国 [フィリピン]

海外学校名 [Arsenio H. Lacson Elementary School] 担当教諭名 [Marlene D. Ordaniel]

■実施教科・時間数について教えてください。

| アートマイルに関連した 実施教科・時間数 | 教 科 | 単 元 名 | 時間数 |
|-------------------------|-----------|-----------------|-----|
| | 総合的な学習の時間 | 自分の生き方について考えよう | 10 |
| | 総合的な学習の時間 | フィリピンの友達と仲良くなろう | 10 |

■作品について教えてください。

| 題 (テーマ) | 未来へと続く両国の絆 |
|------------|--|
| 絵に込めたメッセージ | 両国の文化を紹介する作品にしたいということで意見がまとまった。その中で本校の児童はつながりや未来、絆を表すものにしたいと、虹と手を繋ぐ子どもたちを描いた。ラクソンの子達もそれにつながるように絵の続きを描いてくれたので、両国の虹がつながり、子ども達も共に手を取り合う作品となった。雲の中には特徴的な食べ物や建物など描き、肌の色やたべものの違いなどから、両国の特徴を感じ取ることができた。 |



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

| 成 果 | 課 題 |
|--|--|
| 生き方について考えるという難しいテーマについて両校で話し合うという学習の一つとして作品に表現した。完成した絵を見て、言葉で伝えていなくても思いが伝わったことを実感し、強いつながりを感じることができた。 | 間に入っていていただく日本人の方のサポートがなければ、このような難しいテーマでの学習はできなかった。言葉の壁はやはり大きい。 |

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

| 児童生徒の意識の変化 | 教師の意識の変化 |
|--|--|
| 世界の国の一つであった国が、児童にとって特別な国となった。行ってみたい国、よく知っている国となった。 | 絵がつながり、今回は実際に本校を訪問もしていただき、教師同士も両校のつながりを実感すると共に、未永い交流を願うようになった。 |

■主な活動の流れを教えてください。

| 場面 | 時期 | 活動内容 | 児童生徒の反応 | 実施教科等 |
|---------|-------|--|--|-------|
| 自己紹介 | 6月 | ・ビデオレターを交換。自己紹介と学校紹介。 | 昨年度、JICAでフィリピンについて学習した。そこで学んだ国と直接つながることができ、驚きと喜びが大きかった。 | 総合 |
| テーマ学習 | 9月～ | ・スカイプで共通テーマについての話し合い。「生きていく上で大切なもの」について個人で考え、グループで考えをまとめ、学習プリントを交換したり、スカイプで報告し合ったりした。最後にスカイプで話し合い、両学級で考えをまとめた。 | 国が違ってもわかり合えるということ、考えを一つにまとめるということが出来るんだということを実感することが出来た。フィリピンの子達からは、家族を大切に思う気持ちを反映させた生き方を学び、フィリピンの子達は家族はもちろん、他の周りの人たちにも感謝をしながら生きることの大切さを本校の児童から学ぶことができた。 | 総合 |
| 構図決定 | 10月 | ・大まかなテーマを両校で決定したのち、校内でアートマイルリーダーとなった児童を中心に構図を作成し、下書きをかく。 | 自国や地域の文化、自校の特色などを振り返り、その良さに改めて目を向けることが出来た。また、フィリピンの子達の思いや反応を考えながら作業に取り組むことができた。 | 総合 |
| 壁画制作 | 10月末～ | ・6年代表児童が下絵を完成させ、全員で分担をして色塗り。 | 大きなキャンパスに描くことが出来、満足感、達成感を味わうことができた。 | 総合 |
| 鑑賞・振り返り | 1月～ | ・1月に完成したアートマイルをもって、ラクソン小学校の校長先生をはじめ3人の先生方が来校。全校集会でお披露目し、ウェルカムパーティを開く。 ・学年で鑑賞カードを活用。 | 両校のつながりを実感し、児童も職員も、継続的な交流にしていきたいという気持ちをもつことができた。 | 総合 |

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

| 学習目標・つけたい力 | 目標 | 成果 | 成果についてそう感じた場面・理由 |
|--------------------------|----|----|--|
| 自文化の理解 | B | 4 | 自文化を伝えたいという思いから、自文化について調べる様子から。 |
| 異文化の理解 | A | 4 | 現地の声を聞くことで、調べ学習では分からない深い部分を理解することができた。 |
| コミュニケーション力 (説明・共感・英語) | A | 4 | 級友と、また、ラクソンの子達と考えを一つにまとめる話し合いを通して。 |
| 情報活用能力 (情報収集・発信) | C | 5 | 伝えたいと思う気持ちがあり、そのために正しい情報を伝えようとする姿から。 |
| 人間関係をつくる (学級内・交流相手) | B | 4 | 級友と、また、ラクソンの子達と考えを一つにまとめる話し合いを通して。 |
| 協働する力 (役割分担・協力) | B | 5 | 交流に際し、学年を4つのチームに分け、個人の力を発揮できるようにし、それぞれのチームで活動する姿から。 |
| 学習を追究する意欲 | B | 3 | 特に重視しておらず |
| 表現力 (伝えたいことを絵で表す) | A | 3 | チームのメンバーは立派に活躍してくれたが、学年全体には要求しておらず |
| 作品を鑑賞する力 | C | 3 | 外国の子の作品を見る機会が珍しく、色使いや描かれているものの違いから、それぞれの国の特徴を捉える姿から。 |